

連文

R E N B U N



Vol. **116**
2024.2



寄稿していただきました。

空気を読まない芸術

西日本新聞社久留米総局長 植田祐一



昨年末、朝日新聞の読書欄が目に残った。同紙の書評委員19人が「今年の3冊」を紹介する特集で、美術家の横尾忠則氏もその1人だった。「無用の効用」（ヌッチョ・オルディネ著、河出書房新社）など自薦の3冊を挙げた横尾氏は記事で、本題の書評をさっさと放棄し、独自の芸術論を展開する。

「芸術は何の役にも立たない『無用の長物』である。また芸術には目的というものがない。さらに完成というものがない。人生が未完であるように芸術も未完である。人のため、世のため、なんて言うて行動しているものは全て偽善的に聞こえる」

皮肉たつぷりの表現に、芸術に懸ける情熱がうかがえる。「無用の長物」とは、

芸術を卑下したもので、読者を挑発したものであるまい。「役に立つ」という世俗の価値観や評価軸、さらには自我への執着からあえて自分を突き放す。老境を迎えた近年、脱力と無意識から生み出される計算外の芸術に可能性を見いだそうとする横尾氏の、強烈な自負心を垣間見た。

「空気」を読まない芸術―。真っ先に思い浮かぶのは岡本太郎氏である。目ん玉をひん剥き「芸術は爆発だ!」と叫ぶテレビCMを見たのは小学生の頃だった。長らく奇人としか思っていないが、たまたま著作を手取る機会があり、人生観を大きく揺さぶられた。

「人生は積み重ねだと誰でも思っているようだ。ぼくは逆に、積み減らすべきだと思う。財産も知識も、蓄えれば蓄えるほど、かえって人間は自在さを失ってしまう。過去の蓄積にこだわると、いつの間にか堆積物に埋もれて身動きができなくなる。人生に挑み、ほんとうに生きるには、瞬間瞬間に新しく生まれかわって運命をひらくのだ。捨てれば捨てるほ

ど、いのちは分厚く、純粹にふくらんでく」

岡本氏の著書「自分の中に毒を持って」（青春文庫）は、こんな書き出しで始まる。出合ったのは20年近く前、東京報道部で政治取材に追われていた頃だった。以来、自分が弱った時に読み返す「人生の1冊」となった。

昨年夏に久留米に着任し、内野博夫会長をはじめ久留米連文のみなさんと懇談の機会をいただいた。もとより文化芸術分野は全くの門外漢。ただ、興味深かったのは、ある方が漏らした「嘆き」が、岡本氏の著書に出てくる中身とほぼ同じだったことだ。

「小学校の1〜2年生ごろまでは、みんな奔放な絵を描く。下手くそだろうがかまわず描いている。そこにはおもしろさやハツラツとした自由闊達な気力があふれる。ところが3年生ぐらになると、だんだんと絵が写実的になってくる。自分の外的世界を意識するようになるからだ。まわりの眼を気にするようになるし、うまく描こうとするようになる。すると途端に絵がつまらなくなる」（「自分の中に孤独を抱け」87ページ）

大人も子どもも関係なく、「いのちがバツとひらく」ような芸術が息づく。久留米がそんな街になったらいいな、と夢想する。

第42回 会員華道展

2023年9月15日(金)〜9月18日(月)に、華展会場をヒュージェイガーデン(岩田屋6、7、8、階)に変更しての開催でした。慣れない会場で戸惑いもありましたが、9の流派が力を合わせて昨年よりも2割増のお客様に来ていただきました。流派を越えて、伝統的作品から現代的な作品まで展示され、ご来場のお客様の心を魅了した花展でした。

(華道部・江崎如風)



令和5年度

久留米市表彰

11月3日(文化の日)市の表彰式が行われました。連文会員で芸術奨励賞を受賞された皆さんをご紹介します。

芸術奨励賞

芸術分野で今後の活躍が期待される人に贈られました。

■洋楽部 長谷川 ゆか



今年度の久留米市芸術奨励賞という栄えある賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。

ありがとうございました。受賞に値する活動ができたかという点、甚だ疑問ではありますが、これまでの演奏活動を皆様に評価いただき、受けたものと受け止め、今回の受賞を励みとして、今後もなお一層の精進努力を続けていく所存です。

そして、広く市民の皆様と共に音楽の素晴らしさを共有できるのであれば、こんなに嬉しいことはありません。

最後に、今まで関わって下さった多くの皆様に感謝すると共に、これからも何卒よろしくお願い申し上げます。

■文化交流部 西田 まみ



この度は、久留米市芸術奨励賞という栄誉ある賞を頂き、誠に光栄に思います。そして嬉し

さと共に身の引き締まる思いです。

音楽大学を卒業しアメリカより地元久留米へ戻り活動を始めて約二十年、紆余曲折ございましたが、応援して下さる皆様のおかげで今の私があります。心より感謝申し上げます。

これからも、ひとりでも多くの方にジャズの魅力をお伝え出来ますよう、そして久留米市音楽文化発展に微力ながらお役に立てればと存じます。ありがとうございました。

久留米市功労者

〈文化振興〉

文化振興、社会福祉の増進など、市の振興発展に寄与した人が表彰されました。

■洋舞部 齊藤 勝(彰)



この度は、2019年の久留米連合文化会に続き、久留米市からも功労賞をいただきまして、

誠に光栄に存じます。長年にわたり私を支えてくださった方々にお礼申し上げます。舞台製作では、ポニーや丈の合う麦の穂を探していただき、多方方面からもご協力いただき、お一人おひとりに厚く、深く感謝いたしております。

文化の薫り高い久留米で同志が情熱をもって創られた連文との出会いは、40年ほど前に藤間天津雄先生や花柳光君先生にバレエの舞台を観に来ていただいたことに始まります。第二の故郷を久留米に選んだ者として、感慨もひとしおです。

今、世界のあちこちで平和な日常が壊され、そして自然も……。連文は、様々な文化の集合体ですが、私達の踊りの世界は言葉がないだけに、世界共通用語としての表現力に成り得ます。文化は継続が大事だと思えますから、これからも文化の誇りを持って地道に努力し続けていきたいと願っています。

第69回 桃青忌俳句大会

11月11日(土)、前日の雨模様とは打って変わった小春日の中、桃青忌俳句大会を行いました。

高良山の中腹にある松尾芭蕉を祭神とした桃青霊神社(桃青は芭蕉の別号)を吟行し、御井校区コミュニティセンターでの句会に臨みました。参加者が八名という事で宣伝不足は否めませんが、

それぞれの句に対する思いを語り合い、勉強になった会であったと思います。

選者三名の特選句(◎)佳句は次のとおりです。



宮崎 みゆき 選

◎ 芭蕉忌や飽くなき道と思ひつつ

平岡 清志

俳聖の心遣ひか冬日和

吉田 いずみ

菊供へられて霊社の安らけし

大日方 明美

野口 桂子 選

◎ 俳諧の聖地に住みて芭蕉の忌

吉田 いずみ

脇路を登り祠へ桃青忌

宮崎 みゆき

寛政の世より繋ぎて芭蕉の忌

吉田 いずみ

吉田 いずみ 選

◎ 芭蕉忌や世代交代重ねつつ

野口 桂子

芭蕉忌や奥の細道辿りたし

宮崎 みゆき

荒磴を登り小春の宝前に

大日方 明美

(俳句部・吉田 いずみ)

第52回久留米連合文化会会員美術展

会員賞

出品数は洋画32点、日本画5点、水墨画10点、彫刻4点、工芸16点、書道49点、写真30点、デザイン8点。会員賞は11点です。

会場 久留米市美術館

会期 「I期」10月11日(水)～15日(日) 彫刻・書道・デザイン
 「II期」10月18日(水)～22日(日) 洋画・工芸

「III期」10月22日(水)～29日(日) 日本画・水墨画・写真



彫刻 「1958.79.97.2001年 環境と事物2023」
元田 典利 (八女市)



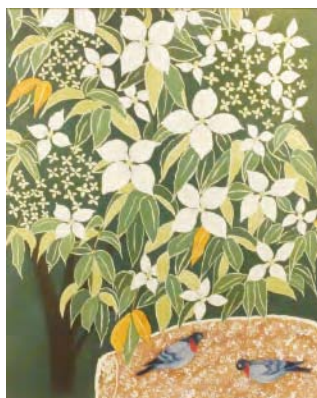
洋画 「窓辺」
佐藤 小枝子 (久留米市)



洋画 「古都 (中国山西省)」
角 加代子 (久留米市)



水墨画 「阿修羅」 城戸 妙子 (久留米市)



工芸 「山法師」 山下 静江 (久留米市)



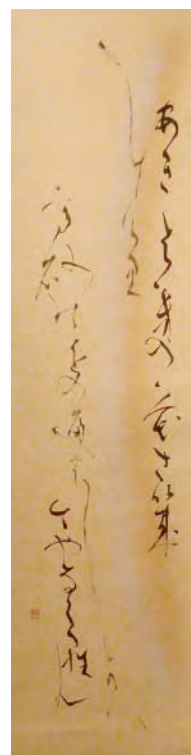
日本画 「彩り」
後藤 諏訪子 (久留米市)



写真 「落日の詩」 檀上 善一 (久留米市)



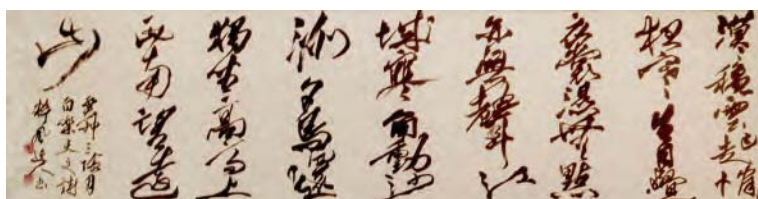
写真 「星の軌跡」 古賀 敏彦 (久留米市)



書道(かな) 「あきはぎの」
膳所 ヨシ子 (久留米市)



デザイン 「Please」
川村 景子 (宮崎市)



書道(漢字) 「白楽天詩二首」 田本 粹風 (小郡市)

第72回久留米市総合美術展

第72回久留米

市総合美術展
 募点数284点
 応募者232名
 前年度とほぼ変わりませんが、各部門共に作品レベルが高く、賞を決めるのは、苦労しましたが、突出した作品がなかったのが残念との意見が各部に多少ありました。もっと大胆なビックリする様な作品もお願いしたいと思っています。



(久留米市総合美術展実行委員会)

副会長・久我 敏博

【久留米市長賞】

洋画「かえろっ。」 川島良子 (久留米市)
 日本画「Sheer timer」 酒井貴輝 (久留米市)
 水墨画「牡丹」 坂本千代女 (久留米市)
 彫刻「生きる」 小西一記 (久留米市)
 工芸「手塚つく秋映えに」 石田由美子 (基山市)
 書道「劉松詩」 西岡みゆき (久留米市)
 写真「湊江」 藤崎聖二 (大牟田市)
 デザイン「言葉の力」 松土歩生 (福岡市)

第72回久留米市総合美術展にて

アートレクチャー事業 ～アーティストのメモ帳～

今回、第72回久留米市総合美術展にて美術部門に属する青年部委員が「アートレクチャー事業～アーティストのメモ帳～」を企画、実施しました。

この試みは、コロナ禍を経て通常通りの事業が再開される中、久留米市総合美術展に出品される方や来場者に向けて、会員展作品の説明やデモンストレーション、ワークショップなどを通じて、作品制作過程へのより深い理解から、既存の出品者に対して更なる創作意欲や新規に美術作品制作に興味を持つ動機に繋がればという意図をコンセプトとしています。

今年度の総合美術展では、第1回のアートレクチャー事業として「アーティストのメモ帳～作り手の裏側～」を表題に、美術展会場内や美術館多目的ルームを使用して、1期目の10月14日(土)には、デザイン部による「考えるデザイン 作るデザイン」を、2期目の10月21日(土)は、工芸部による「絵の具とはチョット違う工芸の色と仕組み」を、3期目10月28日(土)は、写真部による「基礎から学ぼう」のアートレクチャーを実施致しました。

デザイン部は、ワークショップ形式を主軸に、与えられたテーマに沿ったイメージを作ることの難しさや面白さを、工芸部は、体験型と口ウケツ染めの工程や染料の特徴説明を主に、口ウケツによ

る染色作品制作の複雑さや奥深さを、写真部は、シャッタースピードやホワイトバランス、露出などをホワイトボードを使いながら解説し、場面や構図を活かした写真を撮るためのポイントや考え方を伝えて頂きました。



参加者から「とても楽しかった。」「作品作りの過程や考え方を初めて知りました。」などと嬉しいコメントも沢山ありました。また、一方で「話が難し過ぎて良く分からなかった。」などの次回に向けての反省に繋がる意見もありました。

とにかく、やってみようという試みた第一回目的のアートレクチャー事業でしたが、参加者のみなならず、実施者にも基本を振り返る貴重な体験になったと思います。

この事業が、久留米市総合美術展と共に継続することで、美術作品への興味や理解がより深まり、久留米市の更なる文化活動の促進へと繋がることを期待しています。

(青年部委員長・宇美 拓哉)

連文の今日、そして明日から

若い会員が、今なにを思い、どんな連文にしていきたいのかを会長も交えて自由に話していただきました。これからの活動を探る機会となりました。

【座談会】

●参加者

内野博夫 (会長／彫刻)
宇美 拓哉 (青年部委員長／洋画)
伊藤花珠 (書道)
藤間 勘志龍 (日本舞踊)
稲吉 恵梨奈 (洋楽)
生津 春花 (華道)
●進行・記録
吉本 暢子 (広報委員／デザイン)
今村 好典 (広報委員／映画演劇)

吉本：連文で今困っていることやそれぞれの活動について自由にお話してください。
内野：現在会員数は約480名。会員数が少なくなってきたから予算的には厳しさも増しています。連文に限らず、高齢化もあり、横と繋がって連文らしい活動を考えると、会員数の減はそのまま活動予算の減少につながる。
予算の配分についての不平等感もあるようです。部の会員数に応じて配分すれば平等というわけではないですし、美術



など作品として残る性格の活動と舞台芸術のように残らないものの違いもあり、不平等感も確かに表面的な予算だけではないかもしれません。
吉本：各部の活動や各委員会、外部の事業などを様々な視点で検証し相互理解することなのでしょうね。
伊藤：部の活動や連文への参加姿勢については、昔から脈々と続くやり方をそのまま受け止めてしまっているのが良くないかなと思います。

青年部(青年部委員会を中心にする若い会員の活動)とかで横の繋がりができれば、連文ならではの良さも実感できて、そこから活動が活性化するのは。個人的には、青年部での活動を通して連文に入ってよかったなと実感しています。
稲吉：青年部活動は楽しいですね。
宇美：部門の垣根を越えた活動という意味では、青年部はかなり自由度が高いと思いますが、現状はすべての部門で青年部として関わっていないのが実状です。発足当時、全部門参加での青年部という組織にならず、規模を縮小し青年部委員会としての活動となりました。未だに青年部は正式に組織されていないために、全部門からの参加には至っていません。すべての部門を縦断しての参加が有れば、それぞれの部の活動とはもっと別の視点や交流が生まれるのではないかと。

内野：例えば50歳以下の全会員を対象にするなど、青年部の構成を再構築した方がいいかも知れませぬね。

内野：何かに付け、自己研鑽ということがよくいわれる。所属部、あるいは連文以外の人と繋がっていつているんなことに触発を受けたり、一緒に何かやったりするとそれが自己研鑽になる。

伊藤：やっぱり自分自身が動かないと結局何もできないのかなあと思います。上の人の考えもある中でも、気づきがあれば、遠慮なく提案していく必要がある

のでは。

宇美：今は個の時代、年に1回展覧会やって終わりというのにはなんの魅力も感じない。他の美術団にも入らないし、連文も同様、入るメリットは何？と聞かれることがある。連文は横のつながり、他の芸術分野をやっている人と繋がれるというのがメリットだと思います。

生津：華道部門とかだと、先生によるんですが伝統的なやり方を踏襲するというのが基本になっている・・・でも私は広報をやらせていただいた中でお茶の先生とかと繋がりができて今でも感謝しています。

宇美：伝統芸術は特に先生からなんでも学ぶというスタイルがあるので、それこそ、本家本元がどうなのかというのはどうしてもお伺いをたてることが多いみたいだし。やはり「道」がつく分野は厳しいよね。

生津：新しいことをやる時などに、まずは本部に連絡して、相談しましたら許しが出ていますのでさせていただけますよ、とか、私の流派では、ですよ。他の流派には言えないので。
内野：独立して活動する、という方もいらっしゃるしやいますか？

生津：ああ、みんな独立してやっていますけど、大もとはいらっしやるので。勉強会とかも月に1回とかやっているけど、よそのお社中とはお話しなさってはい

けません、と言われたりするのですが、若い方に連文入ってる？とかすらも聞けないんですよ。

全員：ええ〜〜？

内野：そこまであるんだ。お花を習いに来られる若い方って多いですか？

生津：本当は流派々々で違うと思いましたが、話す機会もないのでわからないんですよね。たとえば基本的に他の流派の華道展とかは行かないです。

連文への関わり方も、例えば私たちの流派は役員だけが全部連文に入っています。他の若い子達と話す機会はないです。でも他の流派の方とかも若い方はお見かけしないので、同じような感じではないでしょうか。

こう決まりましたよ、ということが連文から降りてくれば、それはOKということになるけど個別に何か動こうとしてもそれは違うということが終わってしまつ。

内野：ということはたとえばお花でも担当副会長から話が降りてきて、動くという形になれば良いということでは。

生津：昨年の原文祭でのお迎え花では、全流派一緒にパーッと活けて・あれは合同で楽しかった。やはり上からこうやります、というふうに言っていたけどとなんの問題もなく取り組めるし、実際やってみるととても楽しかったんです。今村：そういう意味では少しずつでも変化はあるということでしょうか。

稲吉：今日こうやっているんなお話を聞けたから考えるけど、何もなければ、フラットとしたままなんですよね。お話を聞くと、ハツとして頑張ろうと思える。

今村：日舞とかはそんなことはないですか？たとえば個人として他の流派

の人とかやるというのは難しいのかな。

勘志龍：難しいことはないと思います。ドクターブンブンとかもそうですけど、個人で他流派と一緒にというより連文

として動く時には全流派一緒にやるという感じですが、でもみんな一緒に参加した方が理解が得られて、私は良いかなあと思つてます。

伊藤：広報委員会の中では色々熱い意見が飛び交うけど、一般の会員さん達にそういう情報が行き渡っているのかなと考えると・・

宇美：イベントでも一般の方に向けて何かやるということのも大事ですけど、連文の会員さんたちに向けて何かやるというか、絵の講習をみんなに聞くとか、アートレクチャー（昨年）はそういう目的があつて、参加している会員さんたち

にも例えばデザインの経験をしてもらつたりとか、他の部の理解をしてもらいたいとか。

内野：会員美術展でも自分が出品した会期以外にある他の展覧会を見るかという、なかなか相互理解は足りないところがある。自分が他の方の作品を見

に行かなければ、他も見には来ないよね。

稲吉：やっぱり、連文の中で色々知り合いになると、興味を持つから、自分は音楽しかない人生だったんで、コンサ

ートホール以外に芸術というのはなかったんですけど、連文でこうやって仲良くさせていざと、美術とか、それまで

行ったことも無かった世界で、行くとしたら、知った方がいらしゃると、それが行く目的になるから自分の世界も広がるし、またコンサートにも来ていた

けたりとか、そんなふうにお互いに行き来できるようにするのがもつと広がると思うと思いますね。

内野：美術とかでいうと、昔の人たちとかは詩とか音楽とかから影響を受けて自分の作品に活かしていくとか、ありましたよ。

伊藤：確かに「書道だけをやっていたら全然広がらないよ。どんだんいろんなものを見てきなさい」と、言われたことがあります。

稲吉：思いつきですけど、一つの同じものを見て、みんなそれぞれ自分のジャンルで表現していくとか面白くないですか。書とかデザインとか、同じテーマで作るというのも良いかも。

稲吉：音楽に限ってかもしれないですが、芸術を追求するという流れが今はあまりなくて、追求すればするほどお金にならないんですよ。お客様に求められる曲を演奏している方が稼げるので、自分の

勉強というのをみんなしない流れになつてる。

連文に入ってコンサートをするときは演奏者がチケットを買い取るというノルマ制でやつたりするんですよ。他のところでは同じことをやってお金をいただくのに、連文では同じことをやっても逆に払わないといけなかったり。

赤字を出さないための方法ではあります。もつと自由に多方面で宣伝して盛り上げていくという流れにならないかなと思つたりします。

宇美：舞台芸術と規模は違うけど美術部門でも表装代とか、いろいろと目に見えないところで掛かる費用はある。絵や工芸は、個展などでの販売をよく見かけますが、書道については、あまり見ない様な気がします。個展とかの場合、費用は自前というのが基本になる。

内野：伝統的なやりかたは有つても、これからの連文が活発になつていくにはどうしたらいいか。今日の意見を正副会長会議でもテーマにしていきたいと思つています。

結論はありませんが、若い会員の今の思いを、様々な世代の会員に共有できた貴重な機会になりました。この時間が明日への一歩となることを願います。

(広報委員会)

※座談会では他にもたくさんのご意見が飛び交いましたが、要約掲載しています。ご了承ください。

第75回 久留米茶道連合会法要大茶会

— 梅林寺を訪れて —

令和5年11月12日朝7時。

「第75回久留米茶道連合会法要大茶会」の取材のため梅林寺を訪れました。

早朝ということもあり敷地内に入ってもひっそりとして静かでしたが、一度寺内に入ると多くの人が行き交い、法要や茶席の準備が粛々と進められていました。

趣のある竈でお湯が沸かされ、年季の入った重厚感のある板張りなど特別な時間へ緊張感が高まりました。



まずはじめに、故人を供養する「お供茶」が始まり、厳かな雰囲気の中でお茶が献じられる様子を少し離れたところから見学させて頂き、身の引き締まる思いがしました。

初めて見る儀式に圧倒されていると、次は堂内に鳴り響く太鼓の音とともに「お施餓鬼法要」が始まり、茶の湯が始まる時間が近づくと、着物に身を包んだ多くの人が次々と集まって来られました。その後始まった4流派ごとの茶席では、緊張の面持ちでお部屋に入っていくお客様が、茶の湯のおもてなしを受けて、楽しそうな表情で戻って来られる様子や、お茶碗やお道具を興味深くご覧になる姿が印象的でした。

流派を超えて多くの方が携わり、先人に礼を尽くされる姿、お客様に心を尽くしたおもてなしをされる姿を目の当たりにし、日本の心を体感する貴重な時間を

過ごすことができました。

今回は茶道部の一活動をほんの少しですが、ご紹介させて頂きました。このほかにも、4月には久留米シティプラザにおいて「第70回久留米連合文化会茶道部大茶会」の開催などが予定されています。

ご承知のとおり久留米連合文化会では文芸、美術、舞台芸術、華道部門と様々な文化活動に触れる機会に恵まれております。例年開催されている展覧会やコンサートなどもあれば、周年記念の催し、青年部会員によるイベントなども行われています。会員の皆様もぜひ各部からのお知らせ（会報裏表紙や連文ホームペー ジ）などチェックして頂き、機会を逃さず様々な文化を楽しんで頂けたらなと思っております。

（広報副委員長・伊藤花珠）

— 久留米茶道連合会

法要大茶会について —

茶道部のお世話役・田中宗俊先生に法要大茶会の歴史などについて伺いました。

この法要大茶会は、戦後の戦死者を供養することを目的として昭和24年頃からスタートし、今日に至っては亡くなられた茶人の方を供養するようになっていきました。発足当初のメンバーは、大日本茶道学会、裏千家、江戸千家、番茶道（皇風



煎茶禮式清和会）、表千家不白流、南坊流の方々、今日では、大日本茶道学会、裏千家、江戸千家、表千家不白流の四流が参加しています。今日でも茶会が主ではなく、供養を主とした法要を行っており、そのあとに、茶の湯を楽しんでいただくようにしております。

今年も、参加者は会員と一般客を合わせて337名と多くの方に参加していただくことができました。無事に開催できましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

「ドクターブンブン アートであそぼう！」



2023年11月26日(土)、久留米シティプラザ久留米座にて開催しました。
久留米シティプラザで毎年開催されているドクターブンブン事業に久留米連合文化会から青年部委員会が参加するようになって三年目となりました。

一昨年は、コロナ禍にてウェブ配信のみでの参加となりましたが、昨年はようやく会場にて初の実施となり、ドクターブンブンの流れや空感を掴むことが出来ました。今回も、昨年同様に久留米座ホワイエにて美術部門によるワークショップ、久留米座では舞台部門から洋楽の体験事業を実施しました。前回の導線やタイムスケジュールなどの反省点を踏まえて、ライン会議やグループラインなどを活用しながら周到に計画しました結果、前回を大幅に上回る参加者数となり、また、沢山の方から好評を頂きました。

この3年間、青年部委員が主に参加してきましたが、今後に規模の拡大や新規体験の計画などを考えますと、青年部委員会のみならず、連文本体の部門からも参加を募ることも検討するべきかとも考えています。将来に久留米市地域を担う子ども達に文化活動への興味やきっかけを提供出来る場として連文が一役買える素晴らしい事業だと捉えています。

(青年部委員長・宇美 拓哉)

クリスマスカードを作ろう！

美術部門では「クリスマスカードを作ろう！」と題し、昨年に続きものづくりワークショップを実施しました。

3色あるカード台紙をベースに、アクリル絵の具で着色したペーパーをもみの木やサンタなどのクリスマスモチーフで切り取り、台紙に張って思い思いにデコレーションしてカードを制作していただきました。



前回の反省を生かしながら何度もミーティングを重ね、デコレーションシールが入ったガチャガチャを設置するなど、子どもたちに「参加してみたい！」を思ってもらえるような様々な工夫を施しました。

ワークショップは13時からの開催予定でしたが、準備中から沢山の方にお集まりいただいたので急遽時間を早めて開催し、材料が無くなるまで約60名の方々に楽しくご参加いただきました。

(青年部委員・中園 唯)



音楽家になってみよう！

舞台部門はオーボエ、ピアノ、指揮、パーカッションでコンサートを行いました。クラシックから童謡、アニメソングまで幅広いジャンルの曲を、珍しい楽器だけでなく、鍵盤ハーモニカやリコーダーなど子供達にとって身近な楽器も使って演奏しました。曲の途中に入れたクイズやリズム遊びにも元氣よく参加してくれ、楽しい時間を過ごすことができました。



そして今年は、客席で演奏を聴いてもらうだけではなく、ステージにも立つてもらおうと思いい、「音楽家になってみよう！」というタイトルにし、希望者の子に指揮者になってもらいました。

ステージに立って指揮をするという非日常的な体験に、目を輝かせてくれた子どもたちが印象的でした。私たちにしても、お子様たちと一緒に音楽を楽しむ事ができる素敵な機会になりました。

(青年部委員・稲吉 えりな)

第69回 茶道部大茶会

令和5年9月24日(日)、久留米シティプラザ4階和室、中会議室、5階大会議室に於いて開催しました。

各流派が限られた時間中、一人でも多く方々にお茶を楽しんでもらいたく、趣向を凝らした中で300名を超えるお客様をおもてなしすることができました。

コロナ禍で茶会を開く事が難しかった時期を乗り越えての開催で、お客様が各会場を巡り、お茶やお菓子を味わって楽しんでいらっしやる様子を見ますと、やっと以前の茶会にもどりつつあるのかなとうれしく思ったのと同じに、茶会が開催できたことに感謝した一日でした。(茶道部・牟田泰雪)



第31回

ふくおか県民文化祭

2023 in くるめ

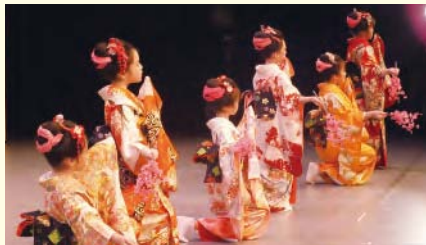
不思議の国のRENとBUN

2023年10月21日(土)、久留米シティプラザ久留米座にて開催しました。

開催までの時間が限られた中、舞台芸術部門を中心に実行委員会スタイルで準備を行いました。

今回のテーマは、連文の活動を広く一般市民、特に子どもたちに継承するという目的で、舞台芸術からは、洋舞・日舞・謡曲・邦楽・洋楽・文化交流が参加、同時にエンタランスでは美術部門・文芸部門の作品展示、連文の歴史などの紹介パネルの掲示を行いました。

また、会場入口に設置された華道部門によるお迎え花の展示では、大きな花台



に各流派合同での活け込みが行われ、訪れた方々の注目を集めました。流派を越えたこのような取組は初めてのことであったかと思えます。

RENとBUNというのは、連文青年部が子どもを対象に行なっているドクターブンブン「アートのあそぼう!」の企画から生まれたキャラクターで、芸術が好きなお子どもをいつも見守り応援する気持ちを表現しています。

舞台では二人のMCがその役割を担い、不思議の国に迷い込んだかのような流れで、各担当者の解説も交えながら、それぞれの活動を紹介していきました。会場には親子連れを中心に多くのお客様にお越し頂き、大いに楽しんでいただけたものと思います。

今、特に子どもたちの理数系の教育現場においても芸術分野を取り入れた活動がテーマのひとつになっています。連文の存在は、残念ながら一般市民にはあまり知られていませんが、このようなイベントを通じて、広く周知させていくことが重要になってくると思われれます。

なお当日、美術部門各部の方々にも作品を持ち込んでいただきましたが、準備不足で、展示が叶わず、たいへんご迷惑をおかけいたしました。紙面を借りてお詫び申し上げます。

(実行委員・今村好典)

第31回ふくおか県民文化祭2023

筑後詩の地脈、

水脈をたどる

11月5日(日)、13時30分より、福岡県詩人会主催、久留米連合文化会、ふくおか県民文化祭実行委員会共催で、トークイベント「筑後詩の地脈、水脈をたどる」を久留米市文化センター共同ホールに於いて開催しました。

参加者50名第一部は、緒方和美と山本源太の講話、司会進行は、うらいちろ。

戦後いち早く、久留米文化の会(久留米連合文化会の前身)を創立した、丸山豊先生の業績をもとに、全国の詩人から久留米抒情詩として注目された「詩誌母音」、「久留米文学」、「歩道」、「泥質」、「泥群」などの詩誌を通して筑後詩の歴史を

たどる。また、今に広がる筑後の詩と題して、現在活動している筑後地区の詩人12名を紹介する。

第2部は、筑後地区9名の詩人による自作詩朗読。太刀洗平和祈念館「朗読部会」の参加もあり盛況に終わる。

(詩部・緒方和美)



久留米市上下水道フェア2023

(大日本茶道学会)

秋晴れの日、久留米市上下水道フェア2023が10月21日(土)、南部浄化センターにおいて開催されました。館内のロビー、テーブルに風炉釜を据えお点前をして一服のお茶を差し上げました。お干菓子には銀杏と柿で皆様には季節のお菓子里に、とても興味を示され日常生活から離れ楽しい一時をお過ごしいただき、お手伝いした私供も有意義な一日でございました。

(茶道部・井上千雅)



フジタバレエ研究所創立74周年
バレエリサイタル

「ドン・キホーテ」

フジタバレエ研究所は昨年8月20日(日)、久留米シティプラザ ザ・グラนด์ホールに於いて全幕「ドン・キホーテ」を上演致しました。古典作品にフジタバレエ研究所のオリジナルティ溢れる要素を加えながら、作品を創り上げました。物語や人物像を表現するこ



とは、バレエの基本のお稽古のうえに基づく演技が必要となります。バレエは台詞がない代わりに、一人ひとりが役柄や人物設定を細かく決めることで、表情や動きに違いを出すことができました。

ゲストには東京バレエ団の秋元康臣氏をはじめ、全国で活躍される7名のダンサーの方々、フジタバレエ研究所の卒業生のバレリーナも舞台に華を添えてくれました。そして、この作品に取り組むにあたり「心を合わせる」ことを出演者全員で意識し、心がけました。今現在人間関係、社会、希薄化するこの世の中で、心を合わせて、一つの目標に向かうことの大切さを若い子どもたちにバレエを通して伝え、鑑賞して下さったお客様に少しでも心豊かな時間を一緒に共有していただければ・・・という想いでこの日を迎えることができました。

(洋舞部・藤田美知子)

川島幹夫写真展「水ごころ」

11月24日〜28日の5日間、えーるピア久留米に於いて、初めての個展「水ごころ」を開催することができました。内容としては、10数年前からテーマとして撮影してきた溪流の水模様、30点で構成しました。

今まで撮りためた多くのデータから30点に絞ることの難しさを実感し、また

タイトルの付け方、展示順番などの重要性も確認することができました。5日間で320名ほどの来客があり、様々なご意見もいただき充実した楽しい5日間となりました。これからも、作品づくりは自己表現であることを常に確認しながら、また新たなテーマに向けて精進していきたいと考えています。

(写真部・川島幹夫)

◎日誌◎報告 2023年(令和5年) 8月～12月 report

- 水天宮献茶(表千家不白流九州支部) 8/6(土)・水天宮
- フジタバレエ研究所創立74周年
パレエリサイタル「ドン・キホーテ」 8/20(日)・久留米シティプラザ・グラントホール
- 長寿者祝賀茶会 9/10(日)・国分寺
- 第42回会員華道展 9/15(金)～9/18(月)・久留米ビージェイガーデン
- 久留米市芸術奨励賞受賞記念 かな書道三人展 9/20(水)～9/24(日)・久留米市美術館 1階
- 第69回茶道部大茶会 9/24(日)・久留米シティプラザ 4F・5F
- 篠山神社秋大祭 献茶(江戸千家久留米不白念) 9/29(金)・篠山神社
- 観月茶会(裏千家淡交会) 9/30(土)・久留米シティプラザ 六角堂広場
- 青木繁旧居「お茶を楽しむ会」(江戸千家久留米不白念) 10月予定・青木繁旧居
- 江戸千家改編30周年記念茶会祝賀会 10/8(日)・梅林寺(茶会) 萃香園(祝賀会)
- 高良大社 献茶(表千家不白流九州支部) 10/10(火)・高良大社
- 第72回久留米市総合美術展 10/11(水)～10/29(日)・久留米市美術館 1階
- 第52回会員美術展 10/11(水)～10/29(日)・久留米市美術館 1階
- 第31回ふくおか県民文化祭2023 inくろめ
ふしぎの国のRENとBUN 10/21(土)・久留米シティプラザ久留米座
- 久留米市上下水道フェア(大日本茶道学会) 10/21(土)・南部浄化センター
- 田中健と児童合唱団のジョイントコンサート
「ケーナのリズムと共に」 10/22(日)・石橋文化ホール
- 第31回ふくおか県民文化祭2023
筑後詩の地脈、水脈をたどる 11/5(日)・文化センター共同ホール
- 第69回桃青忌俳句大会 11/11(土)・御井校区コミュニティセンター
- 日吉神社 献茶(表千家不白流九州支部) 11/11(土)・日吉神社
- 第75回久留米茶道連合会法要大茶会 11/12(日)・梅林寺
- 第74回西部示現会展 11/14(火)～11/19(日)・久留米市美術館 1階
- 青木繁誕生祭お茶を楽しむ会(江戸千家久留米不白念) 11/19(日)・青木繁旧居
- 川島幹夫 写真展「水ごころ」 11/24(金)～11/28(火)・えーるピア久留米 市民ギャラリー
- ドクターブロン
アートであそぼう！ 11/26(日)・久留米シティプラザ 久留米座
- 弧峰忌茶会(江戸千家久留米不白念) 11/26(日)・少林寺
- 第30回賢順記念全国箏曲祭 12/3(日)・石橋文化ホール
- 第68回助け合い茶会(裏千家淡交会久留米支部) 12/10(日)・久留米シティプラザ
- JR久留米駅 生け花展示(小原流・草月流・嵯峨御流/毎週交代) 通年・JR久留米駅構内

◎芸術散策◎行事のお知らせ 2024年(令和6年) 1月～7月 information

- 洋楽部コンサート「音楽の贈り物」 1/21(日)・文化センター共同ホール
- Micropodium
不思議な魅力に満ちたハンガリーの人形劇 1/23(火)・石橋文化会館 小ホール
- 久留米謡曲連盟謡曲大会 1/28(日)・久留米シティプラザ 久留米座
- 第22回ジュニア青木繁展(展示) 1/29(月)～2/4(日)・えーるピア久留米 2F
- 春の合同役員会 2/17(土)・ホテルマリタール創世
- 華道嵯峨御流久留米司所
創立50周年記念いけばな展 2/23(金)～2/25(日)・石橋文化センター市民ギャラリー
- 利休忌茶会(大日本茶道学会) 2/25(日)・国分寺
- Beyond the Borders vol.2 2/25(日)・久留米シティプラザ 久留米座
- 第71号久留米文学発刊 3/1(金)
- 華道家元池坊久留米支部
創立100周年記念華展 3/9(土)～3/10(日)・久留米シティプラザ 展示室
- 第71回けしけし祭 3/23(土)・かぶと山
- 第42回水墨画 心象会展 3/26(火)～3/31(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
- 利休忌(裏千家淡交会久留米支部) 3/31(日)・久留米シティプラザ
- 篠山神社春大祭 献茶(江戸千家久留米不白念) 4/3(水)・篠山神社
- 第70回茶道部大茶会 4/14(日)・久留米シティプラザ
- 玉垂宮 献茶(表千家不白流九州支部) 4/14(日)・玉垂宮
- 池坊三瀧支部花展 4/19(金)～4/22(日)・久留米シティプラザ展示室
- 高良大社昭和祭 献茶(江戸千家久留米不白念) 4/29(祝)・高良大社
- 水天宮 献茶(表千家不白流九州支部) 5/3(祝)・水天宮
- 第50回書道部書作家展 5/29(水)～水6/2(日)・久留米市美術館 1階
- 仲縄忌供茶呈茶(裏千家淡交会久留米支部) 6/27(木)・遍照院
- 青年交流茶会(裏千家淡交会久留米支部青年部) 学校茶道 7/22(月)・久留米シティプラザ
- 第11回水墨画部展 7/23(火)～7/28(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
- JR久留米駅 生け花展示(小原流・草月流・嵯峨御流/毎週交代) 通年・JR久留米駅構内
- 計報(令和5年8月～令和6年2月)
謹んでご冥福をお祈り致します。
武谷佳水(清子)さん(書道部) 令和6年2月5日

